

世界天文年全国同時七夕 講演会の開催について



柴田



前原



西田

柴田 一成¹

前原 裕之²

西田 圭佑³

〈京大理学研究科花山天文台 〒607-8471 京都市山科区北花山大峰町〉

e-mail: ¹ shibata@kwasan.kyoto-u.ac.jp, ² maehara@kwasan.kyoto-u.ac.jp, ³ nishida@kwasan.kyoto-u.ac.jp

2009年の七夕の週（7月3日～12日）に世界天文年の一環として、天文学会と天文教育普及研究会の共催により、全国同時七夕講演会を開催した。全国36都道府県の97講演会場で開催され、講演者数は延べ119人に達した。参加者総数は65会場集計で4,600人にのぼった。全国同時講演会としては、史上初、史上最大規模かもしれない。その開催の経緯と結果について詳しく報告する。

1. はじめに

読者のみなさんは、全国同時観望会とか全国一斉天体観測会とかいう催しものは聞かれたことがあると思いますが、全国同時「講演会」なるものは初耳ではないでしょうか？ かく言う私も、これまでこのような催しものは聞いたことがありませんでした。本年、7月の七夕の週に、このような珍しい催しものを、天文学会と天文教育普及研究会主催の元に開催しました。もちろん、世界天文年を祝ってのことです。準備する時間がきわめて短かったにもかかわらず、天文学会や天文教育普及研究会の多くの方のご協力のおかげで、世話人代表の私もびっくりするほどの、盛り上がりを見せました。日本全国の参加会場は100カ所近くに達し、全参加者数は4,600人を超える規模になりました。ひょっとしたら、史上初、史上最大の「全国同時講演会」だったかもしれません。ご協力いただいた方々には、ここで改めて御礼申し上げます。

本小文はその珍しい記録を皆様にご報告し、後世に残しておくためにしたためました。（めったに

文章を書かない私（柴田）が、何年ぶりに文章を書きました。これも珍しいことかもしれません。）

2. 発 端

この全国同時七夕講演会の企画のそもそものきっかけは、2009年3月26日の天文学会評議員会でした。このとき、世界天文年を盛り上げるために、天文学会でも（すでに進行している世界天文年巡回企画展以外に）独自の催しものを作りたいが、さてどんな企画をするのが良いのだろうか、短いブレインストーミングをしました。そのとき、「七夕の日に全国同時講演会を開催するのはどうだろうか？」という提案が出されました。発言は東大の須藤さんだったと思います。それはおもしろい、いやたいへんかも、などなど多少の議論の後、とにかくやってみましょう、ということで、副理事長の柴田が担当することになりました。

3. 「世界天文年全国同時七夕講演会」 実行委員会の立ち上げ

何しろ企画案が初めて提案されたのが3月26

日で、予定された講演会の実施日は7月7日ですから、準備期間は3カ月ほどしかありません。最初は7月7日より、旧暦の8月（2009年は8月26日）のほうが良いかもしれないという議論もしました。同時に天体観望会をやるならそのときのほうが天気が良いし、準備期間も長くなるからです。しかし、一般へのアピールという点では7月7日の方が断然わかりやすいということで、7月7日と決定しました。

発案者の須藤さんをはじめとする何人の方々に、実行委員会に入っただけでないかと、メールを送り始めたのが4月上旬～中旬ころ。そのころ、香川大の松村さんに天文教育普及研究会を代表して実行委員会に入ってもらったのですが、松村さんの発案で、天文教育普及研究会にも本講演会の共催となってもらいました。おかげで裾野がぐっと広がったと思います。実行委員会のメンバーは4月25日に次のように確定しました。ここまで1カ月かかりました。

柴田一成（委員長）（京都大学，天文学会副理事長）

土佐 誠（仙台市天文台，前天文学会理事長）

須藤 靖（東京大学，天文学会評議員）

沢 武文（愛知教育大学，元天文学会教育理事）

作花一志（京都情報大学院大学，天文教育普及研究会会誌編集長）

黒田武彦（西はりま天文台公園，兵庫県立大，前天文学会副理事長）

松村雅文（香川大学，天文教育普及研究会会長）

縣 秀彦（国立天文台天文情報センター普及室長）

全員、顔を付き合わせて議論している時間的余裕はないので、議論はすべて電子メールで行いました。皆さんこの種の催しものの経験は豊富で、具体的なプランはてきぱきと決まってきました。委員長の私は大助かりでした。

また、本解説文共著者の前原裕之君、西田圭佑君のお二人（共に京大花山天文台PD研究員）に実

働部隊に入ってもらいました。言うならば、上記の実行委員会がSOC、実働部隊がLOCの役割です。お二人には、ホームページ¹⁾立ち上げから、全国会場との連絡、その後のアンケート集計に至るまで、ほとんどの実作業を担当してもらいました。

4. 「世界天文年全国同時七夕講演会」の具体的なプラン

最終的に決まった具体的なプランは以下のようなものでした。

- 日時：2009年7月7日（火）午後6-7時（7月7日の夕方6-7時に開催が困難な場所では、それ以外の時間や他の日（前後の週末7月4日あるいは11日など）も含めて参加OKとする。）
- 場所：全国各地
- 企画内容：天文学会および天文教育普及研究会会員による同時講演会開催（場所によってはインターネット配信もする）（設備があるところでは講演会后、晴れていれば天体観望会）
- 講演内容：内容は世界天文年にちなんだ話（世界天文年の趣旨やガリレオの見た宇宙など）をイントロで話していただいたのち、各講演者の得意な話題を提供してもらう。

講演タイトルを集め、ポスター、HPで宣伝
7月7日は火曜日なので夕方開催となり、人集めが難しいのではないか、というのが懸念材料でしたが、ここは、その日にできるところはそれで実行し、週末のほうが都合が良いところは前後の週末に開催する、というふうに、フレキシブルにしました。結果的には半数近くが7月7日開催となり、残り半数がそれ以外の日（前後の週末が多数）となりました。フレキシブルにしたおかげで、参加会場が倍増したと言えます。

講演内容も最初は内容を限る可能性も検討しましたが、皆さん得意な話をしてもらうのが企画に参加しやすくて良いでしょうということで、上記

のようなプランとしました。これも結果的には、講演内容に広がりが出て良かったと思います。講演タイトルのリスト(後述)を眺めているだけで、楽しくなってくるほど、いろんな話題が満載の企画になりました。なお、世界天文年にちなんだ話の関係で、講演者の方々に資料提供しますと案内しましたが、(個人的に私ができる範囲でのスライド提供はしましたが)組織だってきちんとやる時間がなく終わりました。期待された方には申しわけありませんでした。このようなこと(天文関係の講演支援)も、いずれ天文学会で組織的にできれば良いだろうなあと考えています。(言うは易し行うは難しですが…)

5. 参加会場募集

全国同時七夕講演会の具体的なプランがかたまった時点(4月末)で、いよいよ、全国の天文学者の方々に講演会開催の依頼・案内を送ることになります。誰に送るか、どのように募集するか、というのが大問題でした。できるだけ多数の講演会場を設定したいのですが、そもそも日本の天文学会正会員の総数はたかだか1,600人程度、天文教育普及研究会の会員数が600人あまりです。(しかも両方を兼ねている会員は多数います。)というわけで、100会場実現すれば大成功、という(無理な)目標を設定しました。(実際は、実行委員の作花さんが、大胆にも「100会場目指しましょう」とスローガンを掲げてくれたのでした。)とにかく、実際に講演会を開いてもらえそうな私の知人を片っ端からピックアップしていきました。知人をお願いするのが一番効果的だと思ったからです。その中には、私が講演に呼ばれたときに、一度お会いしただけ、という博物館やプラネタリウムの方も含まれています。とにかく、そのようにして講演会依頼先のリストを作りましたら、80カ所くらいにはなりました。その80人の知人に片っ端から依頼のメールを送付しました。それが、4月28日から始まる連休の週でした。

何しろ、7月7日まで、すでに2カ月ほどしかない時点です。どれほどの方が講演会開催に協力していただけるか、全く半信半疑でした。半数の方に賛同いただければ大成功だろうと思っていました。ところが、いざふたを開けてみると、皆さんから「これは面白い、ぜひ協力しましょう」というような返事が続々と返ってきたのです。なかには「もー、面倒だけど、この2日ほど相談して、うちでも講演会、やります…」という返事をくださった、某教育大のF先生もおられました。(言外に、こんな急な企画を立てるとはけしからん…と言っているのが聞こえてきそうなメールです。でも文句を言いながらも積極的に協力してくれるところがF先生の良いところです。)連休中でメールがなかなかすぐには皆さんに届かなかったのですが、私のほうは自宅にいて個々の返信にさらに返事を書く時間があつたのは幸いでした。皆さんからの賛同や激励の返信メールには、驚き、感激の連続でした。私自身も住んでいる大阪府枚方市が七夕伝説発祥の地であることから、たまたまその関係で枚方市の講演会を担当することになりました。連休が終わったころには、参加講演会場は50を超えていました。その後も増え続け(多くは正式決定に時間がかかったところでした)、しかも、友達の友達は友達、という方式で、少しずつ輪が拡がり、6月13日の記者発表のときには、講演会場は82、講演数は100に達し、最終的には、7月9日の時点で講演会場97カ所、講演数は延べ119になりました。

天文学会と天文教育普及研究会合わせてたかだか2,000人規模のコミュニティが、わずか2カ月の間にほぼ100カ所に達する講演会を企画したのです。日本の天文学のコミュニティの底力を見る思いがしました。

6. ポスター作成と記者発表

ひょっとしたら史上初、史上最大かもしれない、全国同時七夕講演会を宣伝し、世界天文年を

盛り上げるためにも、できるだけ普通でない派手な宣伝ポスターを作ろうと、専門家にポスター作成を依頼しました。作成をお願いしたのは、京都精華大学。実は昨年より、京大は京都精華大とマンガプロジェクトで連携協定を結んでおり、その関係で、新しく京大にできた宇宙総合学術研究ユニットという分野横断的な京大校内組織と京都精華大の間で、「宇宙とアート」というプロジェクトも進行しています。そういう関係もありましたので、京都精華大にポスター作成をお願いしました。5月11日のことです。6月上旬には記者発表し講演会の宣伝を大々的に開始しないといけないので、これも緊急のお願いでした。当初は京都精華大の学生さんに演習課題として案を作ってもらう可能性もあったのですが、時間が短かったので、結局、デザイン学部の豊永政史准教授が作成してくださいました。(図1参照)。天の川をモチーフとした見事な芸術作品です。ここに全国の会場(この時点で82会場)の情報(講演会場場所、日時、講演者名、講演タイトルなど)をすべて入れるという無謀なこともしたのです。(芸術感覚の貧弱な私が、派手さが足りないと、最初にいただいた作品にいろいろ無理なお願いを言って改変していただきました。良かったのかどうか? 豊永先生には無理なお願いばかりしまして本当に申しわけなかったと思います。ここで改めてお礼とお詫びを申し上げます。)

ポスター(A2判)は2,000枚、ちらし(ほぼ同じデザインのA4判)は10,000枚印刷しました。デザイン料と印刷費合わせて予算は約40万円でした。今回の企画で天文学会から支出した予算はこれのみです。各会場の必要経費はそれぞれの会場で自前で工面してもらいました。各会場(80カ所ほど)には、ポスター24枚、ちらし120枚を配布しましたが、これも皆さんの予想(希望)よりずっと少なくて申しわけなかったと思っています。

記者発表は、6月13日(土)、天文学会理事会と

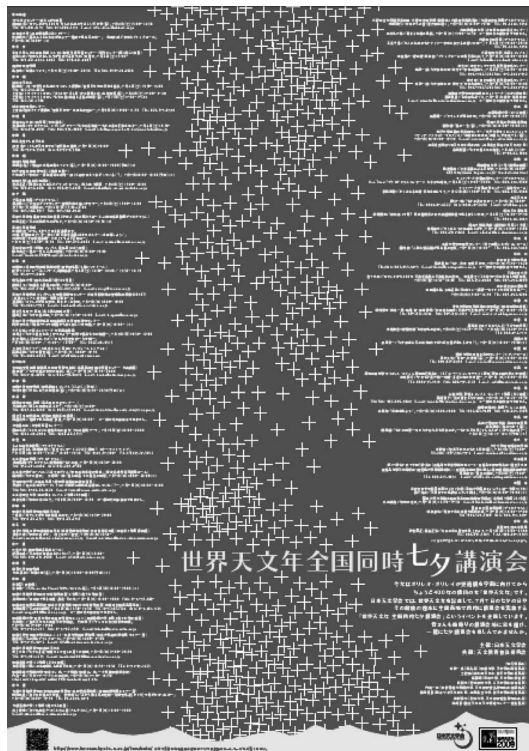


図1 全国同時七夕講演会の宣伝ポスター(京都精華大デザイン学部の豊永政史准教授作成)。

同じ日の午前中に、東京八重洲ホール(理事会と同じ場所)で開きました。史上初?、史上最大?の全国同時講演会としてニュースになるかもしれないと、完成したばかりのポスターを用意して、意気込んで発表にのぞんだのですが、出席した記者は、時事通信と赤旗新聞のわずか2社のみでした。後で、土曜の午前は記者発表の時間としては最悪のタイミングだったと知り合いの記者から聞きましたが、時すでに遅し。(これは今後の記者発表開催の参考になると思いますので書いておきますが、記者発表は平日の午後が鉄則だそうです。)しかし、事前に京大記者クラブにも連絡を入れ、また、事後にも知人の記者何人かにメールを送り、また、実行委員の方々からも知人の記者さんに連絡してもらいましたら、記者の皆さん、興味をもってくださり、結局報道があったのは、上記の赤旗、時事通信に加え、京都(図2)、毎日、読

世界天文年

「世界天文年2009」に合わせ、7月7日の「七夕の日」に、京都、滋賀など全国70カ所以上で天の川や宇宙をテーマとした「全国同時七夕講演会」が開かれることが決まり、日本天文学会が13日に発表した。

星と宇宙について語り合い、七夕の夜の星空をより一層楽しんでもら

京滋など70カ所

ている。
七夕講演会実行委員会委員長の柴田一成京大理学研究所教授(天文台長)は「東洋独自の素晴らしい行事である七夕の日に、子どもと大人と一緒に宇宙の神秘やロマンに思いをほせてほしい」と話している。

七夕の空に☆を語ろう

おうと学会が呼び掛けた。

京都大(京都市左京区)、京都産業大(北区)、滋賀大教育学部(大津市)などでは研究者の講演や観望会、京都精華大(左京区)では講演「マンガにおける宇宙表現」(竹宮恵子教授)などがある。新風館(中京区)では5日にイベントを予定し

同時講演会開催

柴田教授も「七夕伝説発祥の地」である大阪府枚方市と交野市で行われる七夕イベントで講演する。

催しによっては事前の申し込みが必要。各プログラムの詳細は京大理学研究所付属天文台のホームページ。

(稲庭篤)

図2 全国同時七夕講演会に関する新聞記事(京都新聞2009年6月13日)。

売、朝日、日経、徳島と、全部で8社となりました。「短時間の間にこんなに多くの天文学者が皆さんボランティアで講演会を企画してくださったのです。感動するとともに、日本の文化レベルも捨てたものではないと、ちょっと誇らしくなりました。」という、記者さんも皆うなずいておられ、そんな記事を書いてくださいました。

新聞以外にもいくつか報道があり、私の知る限りでは、京都のFMラジオ²⁾が2社、茨城のラジオが1社、また、当日の講演会の報道では、福岡のテレビ(RKV毎日TV—山岡さんの報告)、大阪枚方のケーブルテレビ(KCAT)のニュースなどありました。雑誌については、天文月報、天文教育、天文ガイドなどに案内を載せてもらいました。雑誌ではないですが、アストロ・アーツの天文ニュースにも掲載されました。

皆さんの会場で他に新聞やTVなどの報道ありましたら、ご連絡いただければ幸いです。記録として残しておきたいと思います。

インターネット時代を反映して、各会場では素晴らしく魅力的な全国同時七夕講演会の案内ホームページが作られました。ここですべてをご紹介できないのは残念ですが、東京大学、名古屋大学、大阪大学、愛知教育大学、京都精華大学³⁾など、見ているだけでわくわくするようなページが出ています。多

くは今(2009年10月)でもグーグルで検索できます。(ちなみに、2009年10月11日現在、グーグルで全国同時七夕講演会を検索すると72,900件、世界天文年は何と1,140万件ヒットします。International Year of Astronomyは6,210万件。)

7. 全国同時七夕講演会の実際⁴⁾

先ほども書きましたが、7月7日(火)の前後10日間くらいが七夕講演会の実際の日程で、講演会の日程別分布は以下のとおりでした。

日時	講演会数
・7月 3日(金)	1
・7月 4日(土)	19
・7月 5日(日)	5
・7月 6日(月)	0
・7月 7日(火)	56
・7月 8日(水)	1
・7月 9日(木)	3
・7月10日(金)	3
・7月11日(土)	7
・7月12日(日)	4
計	99

(実際は97講演会場:同じ会場で異なる日に複数回講演会が開催されたケースがある)講演会場は全国36都道府県で開催。講演会数



図3 大阪府枚方市の講演会の会場風景（7月4日）。大人に交じって小学生の子供たちが多数参加しているのがわかる。

が多かったのは、東京12カ所、大阪9カ所、京都8カ所、岡山7カ所でした。（図3に、大阪府枚方市で開催された講演会の風景写真を示します。）

インターネット中継もしましよと呼びかけたのですが、実際に行われたのは6カ所で、京都精華大が人気だったとのこと。また、天体観望会がセットで開催されたのは7カ所でした。

全国97講演会場の責任者の方に、開催にあたってのアンケートを取りました。65講演会の責任者の方からの返事によると、65会場の参加者総数は約4,600人。1カ所当たり平均70人くらいですから、97カ所全部では、実際にはトータルで6,000人規模の参加者だったのではないかと推定できます。参加者数分布のグラフを図4に示します。これを見ると、50～99人の会場が最も多く（23会場）、多いところでは200人以上が5会場、少ないところでは20人未満が7会場となっています。参加者数が少なくても、個々の参加者の方はたいへん喜んでおられたということです。とにかく小規模であっても講演会が開催されたことはたいへん良かったと思います。

講演会場責任者の方の感想によると、実施にあたって苦労した点は、「広報、宣伝の方法やルートがよくわからずに苦労した。」、「参加人数が事前に読めないため、会場の選定が難しかっ

参加者数の分布

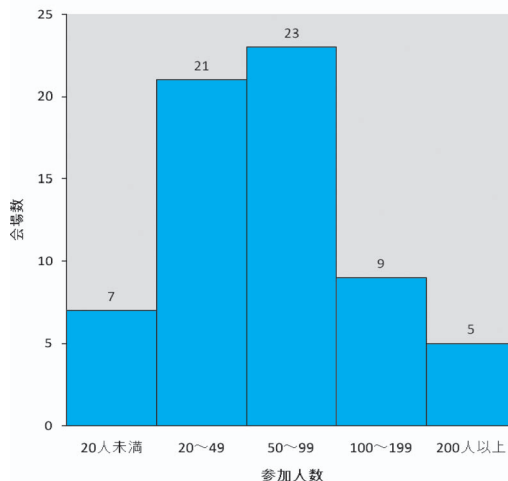


図4 参加者数分布。

た。」とのことでした。これは私どももいつも感じるところです。こころ辺は、地域性などもありますので、何度も講演会などを開いて経験を積んでもらうのが早道だと思います。そのうち、固定客（ファン）が現れ、「今度はいつ講演会があるのですか？」という質問の葉書やメールがくるようになります。

各講演会場では同じフォーマットの参加者アンケートを配布回収してもらいました。48カ所から回答があり、有効回答数は2,067でした。その結果によると、

参加者の年齢層

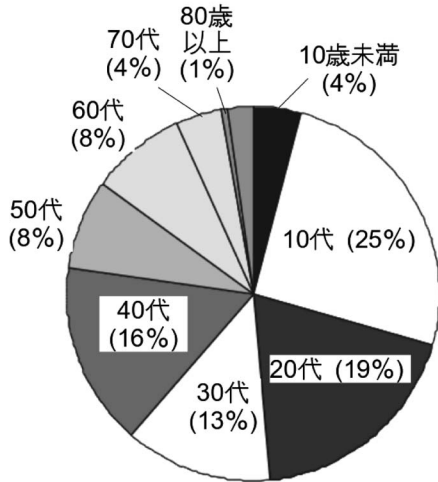


図5 参加者の年齢層分布.

- 幅広い年齢層の参加者があり，参加者の満足度は全体として非常に高い。
- 参加者からの要望
 - レジューメなど配布資料があればよかった
 - 参加しやすい曜日や時間に実施して欲しい（7月7日に実施した会場の参加者から）
 - 広報をもう少し早めにして欲しい，PR不足
- 今後参加したいイベント
 - （今回と同様の）講演会
 - 実際に星を見る観望会

図5に参加者の年齢層分布，図6に講演の難易度の分布を示します。年齢層分布はちょっと驚きです。といいますのは，10代未満，10代，20代を合わせた数字が約48%とほとんど半数になるからです。京大で開催する講演会の場合，いつも20代以下が20-30%程度，50歳以上が半数を占めています。今回は世界天文年ということと，七夕講演会ということで，子供たち，若者たちにアピールした結果のおかげでしょうか？とにかいたいへんうれしい結果だと思います。また，講演の難易度も「やや難しかった」が30.3%，「適当だった」が51.9%と，これも皆さん，比較的わか

講演の難易度

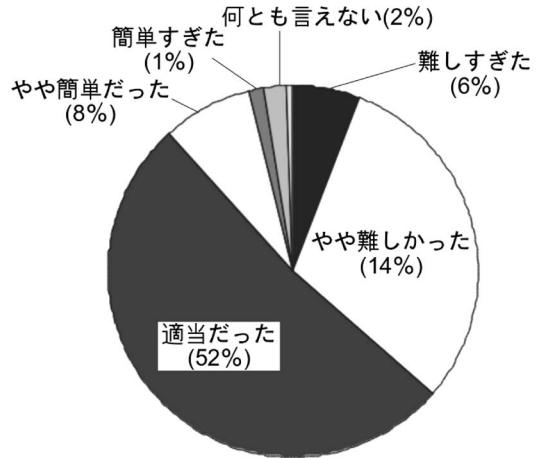


図6 参加者の感想（難易度）の分布.

りやすく講演されたということがわかります。

8. おわりに

皆様のご協力のおかげで，史上初で史上最大かもしれないという，全国同時七夕講演会が開催できました。その報告を仔細にわたり長々と書きましたが，これはもちろん未来を見据えてのことで。途中で何度も書きましたように，日本全国の天文関係の皆さんの底力，企画力，講演力というものは素晴らしいものだと，たいへん感動を覚えました。世界天文年というのが大きな引き金になったのは事実ですが，七夕というわが国の伝統も大きかったのでしょう。もともと七夕企画が予定されていた博物館などが多数あったのも幸いでした。アンケートの回答欄に，「今回と同様の講演会を今後も開催して欲しい」という感想が多数ありました。現時点で同様な全国同時七夕講演会が来年も開催できるかどうかわかりませんが，今回の企画が未来につながれば，たいへんうれしく思います。ご協力いただいた天文学会や天文教育普及研究会の皆様方，本当にありがとうございました。

参考文献

- 1) 全国同時七夕講演会の HP アドレス
<http://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp/tanabata/>
- 2) <http://blog.livedoor.jp/wakaban845/archives/51279147.html>
- 3) 案内ホームページは残念ながら削除されたので、図7に京都精華大七夕講演会の宣伝ポスター <http://natalie.mu/comic/news/show/id/18190> を掲載します。また、同講演会の内容については、以下の京都精華大ブログに詳しく報告されています。 <http://seika-sekai.jp/?m=20090707>
- 4) 天文教育普及研究会の会誌「天文教育」2009年9月号(100号, vol. 21, No.5) pp. 51-60には、全国同時七夕講演会6か所の報告(松村雅文, 沢 武文, 縣秀彦, 臼田-佐藤功美子・臼田知史, 富田晃彦, 作花一志の各氏による)が掲載されていますので、ご参照ください。

付録: 参考のために、全講演の会場, 日時, 講演者名, 講演タイトルのリストを載せます。

On the Simultaneous Public Lectures throughout Japan Celebrating Tanabata
 Kazunari SHIBATA, Hiroyuki MAEHARA,
 and Keisuke NISHIDA

Kwasan and Hida Observatories, Graduate School of Science, Kyoto University

Abstract: Simultaneous public lectures throughout Japan celebrating Tanabata have been held in the week of Tanabata (July 3–12) as a part of activity related to the International Year of Astronomy under a joint program between Japanese astronomical society and Japanese society for education and popularization of astronomy. The 97 lectures were held in 36 prefectures throughout Japan and the total number of speakers were 119. The total number of participants amounts to 4600 people. This may be the first and the biggest simultaneous public lectures in Japan. We present a brief report on how these simultaneous public lectures were proposed and prepared.



七夕講演会 講演一覧

会場	講演者	講演タイトル	実施日
NHK 文化センター 新さっぽろ教室	岡崎教男 (北海道大学教授)	「ガリレオから 400 年大人のためのやさしい天文学」	7 月 4 日
北海道大学総合博物館	俣篠和夫 (北海道大学助教)	「星のふるさとをながめよう—電波で見た天の川—」	7 月 7 日
	早崎公威 (北海道大学 COE 研究員)	「宇宙とブラックホール」	
札幌市青少年科学館	俣篠裕子 (札幌市青少年科学館)	はじめての天文教室～夏の星を見つけよう～	7 月 10, 11 日
岩手大学	花見仁史 (岩手大学教授)	「宇宙にわたしたちが生まれるまでの 136 億年」	7 月 4 日
奥州宇宙遊学館	亀谷 収 (国立天文台水沢 VLBI 観測所助教)	「太陽について」	7 月 11 日
	渡部潤一 (国立天文台准教授)	小・中学生のためのサイエンス講演会「世界天文年の日食を観る」	7 月 4 日
仙台市天文台	土佐 誠 (仙台市天文台台長)	トワイライトサロン「1054 年 7 月 4 日・かに星雲になった超新星 (仮)」	7 月 4 日
	土佐 誠 (仙台市天文台台長)	トワイライトサロン「七夕の星: 織姫と彦星の秘密 (仮)」	7 月 11 日
仙台市桂市民センター	土佐 誠 (仙台市天文台台長)	桂友クラブ講演会「世界天文年～宇宙を身近に～」	7 月 9 日
郡山市ふれあい科学館	安藤享平 (郡山市ふれあい科学館)	プラネタリウムイブニングアワー「七夕の星物語～七夕の星の正体を知る～」	7 月 4 日
茨城大学	野澤 恵 (茨城大学准教授)	「最近の太陽活動について」	7 月 7 日
水戸市総合教育研究所	三宅晶子 (茨城県立医療大学 嘱託助手)	「宇宙の一員太陽系地球号—ぼくらは宇宙とつながっている!—」	7 月 7 日
	森 正夫 (筑波大学准教授)	「宇宙の果てと七夕の夜空」	7 月 4 日
筑波大学	中井直正 (筑波大学教授)	「銀河にひそむ巨大ブラックホール」	
	横山央明 (東京大学准教授)	「太陽のダイナミックな姿」	
筑波技術大学	生駒大洋 (東京工業大学助教)	「宇宙にある様々な惑星系」	
筑波技術大学	新田伸也 (筑波技術大学准教授)	「みそ汁に見る太陽物理」	7 月 7 日
	新田伸也 (筑波技術大学准教授)	「ブラックホールからエネルギーを!」	
	三好 真 (国立天文台助教)	「ブラックホールを観測しよう!」	
群馬県立ぐんま天文台	衣笠健三 (ぐんま天文台)	「ぐんま天文台での新天体の観測」	7 月 7 日
理化学研究所	片岡龍峰 (理研基礎科学特別研究員)	「日食とオーロラの神秘」	7 月 7 日
千葉市科学館	藤井龍二 (天文漫画家)	「天空のダイヤモンド～皆既日食を追いかけて～」	7 月 4 日
プラネタリウム	木下 宙 (国立天文台名誉教授)	天文講演会「日食の楽しみと解かれた謎」	7 月 12 日
東邦大学	白田-佐藤功美子 (国立天文台ハワイ観測所専門研究職員)	「一家に 1 枚天体望遠鏡 400 年ポスター」を活用しよう	7 月 11 日
	白田知史 (国立天文台ハワイ観測所副所長)	2. すばる望遠鏡～大きくてもより正確に～	
東京理科大学	鈴木英之 (東京理科大学教授)	「星の一生と元素の起源」	7 月 7 日
柏市立図書館	吉田直紀 (IPMU 准教授)	「天の川銀河ものがたり」	7 月 7 日
科学技術館 シンラドーム	半田利弘 (東京大学天文学教育研究センター助教)	科学ライブショー「ユニバース」特別番組	7 月 4 日
電気通信大学	柳澤正久 (電気通信大学教授)	「織姫星と彦星の科学」	7 月 7 日
東京大学理学部	須藤 靖 (東京大学大学院理学系研究科教授)	「ガリレオが見た宇宙、見なかった宇宙」	7 月 7 日
三鷹市「星と森と絵本の家」	観山正見 (国立天文台台長)	「七夕の星の話」	7 月 7 日
東京大学・理・天文学教育研究センター	河野孝太郎 (京大大学院理学系研究科教授)	「南米アタカマ砂漠から描く新しい宇宙像」	7 月 7 日
三鷹ネットワーク大学	縣 秀彦 (国立天文台天文情報センター普及室長准教授)	「七夕に星空を見上げてみよう—科学で語る七夕の物語—」	7 月 5 日
	星空案内人 (星のソムリエ)*	「みたか星空散歩—七夕編—」	
六本木ヒルズ東京シティビュースカイデッキ	高梨直紘 (国立天文台研究員)	「七夕の星空 (仮)」	7 月 7 日
日本経済新聞社	池辺 靖 (日本科学未来館科学コミュニケーター),	「7・22 皆既日食カウントダウン!!!」	7 月 7 日
	池田香織 (女優, 日経イメージキャラクター), 上野俊哉 (和光大学教授)		
葛飾区郷土の天文の博物館・プラネタリウム	白田知史 (国立天文台ハワイ観測所副所長), 白田-佐藤功美子 (国立天文台ハワイ観測所専門研究職員)	星の講演会「ガリレオから 400 年～最新技術を誇るすばる望遠鏡」	7 月 12 日

七夕講演会 講演一覧

会場	講演者	講演タイトル	実施日
東工大蔵前会館 ロイアルブルーホール	林 正彦 (国立天文台ハワイ観測所)	第1回ものづくり講演会『すばる望遠鏡で見た宇宙とそれを支える日本の技術』	7月9日
東京未来大学	林左絵子 (国立天文台ハワイ観測所)	国立天文台ハワイ観測所からの宇宙授業	7月11日
相模原市立総合学習センター	阪本成一 (宇宙航空研究開発機構 教授)	七夕の夜の宇宙のはなし	7月7日
新潟大学	中村文隆 (新潟大学准教授)	「ガリレオが見た宇宙: いま昔」	7月4日
金沢大学	米徳大輔 (金沢大学助教)	「宇宙の広がり」	7月7日
	村上敏夫 (金沢大学教授)	「夜空」	
山梨県立甲府南高等学校	臼田知史 (国立天文台ハワイ観測所 副所長)	「すばる望遠鏡? 大きくてもより正確に」	7月10日
	臼田一佐藤功美子 (国立天文台ハワイ観測所専門研究職員)	「一家に1枚天体望遠鏡400年」ポスター活用法	
塩尻総合文化センター	大西浩次氏 (長野高専教授)	「第2の地球はあるか?」	7月11日
国立天文台野辺山観測所	川辺良平 (国立天文台野辺山宇宙電波観測所・所長教授)	「電波で見た織姫」	7月7日
木曾町保健センター	猿袋祐樹 (東京大学木曾観測所)	「46年ぶりに皆既日食の魅力・プロの観測テーマ」	7月10日
京都大学飛騨天文台	一本 潔 (京都大学教授)	「ガリレオがみた太陽黒点の今」	7月7日
とよた科学体験館	星のお兄さん (田端英樹)	星空コンサート2009 爆笑? スターライトライブ	7月12日
名古屋市科学館	毛利勝廣 (名古屋市科学館)	プラネタリウム特別投影「七夕の夜」	7月7日
名古屋大学	塩村 耕 (名古屋大学大学院文学研究科教授)	「七夕の歴史」	7月7日
	犬塚修一郎 (名古屋大学大学院理学研究科教授)	「星と惑星、その誕生の秘密」	
愛知教育大学	沢 武文 (愛知教育大学教授)	「私の研究から—アンドロメダ銀河と銀河系は衝突していた!—」	7月7日
名古屋市立大学	杉谷光司 (名古屋市立大学教授)	「宇宙のなりたち」	7月9日
三重大学	伊藤信成 (三重大学准教授)	「天の川の川幅はどれくらい?」	7月7日
滋賀大学	大山真満 (滋賀大学准教授)	「太陽と日食の魅力」	7月7日
ダイニクアストロパーク天究館	太田耕司 (京都大学教授)	天文講演「七夕の星、銀河系、銀河宇宙」	7月4日
	ピアノ大矢敦子, ソプラノ門田裕子	天究館七夕コンサート2009	
新風館	有本淳一 (京都市立塔南高校教諭)	「LifeonthePlanet 七夕スペシャル」(仮)	7月5日
京都大学理学部	富田良雄 (京都大学助教), 長田哲也 (京都大学教授)	「赤外線で見える織姫・彦星・天の川」	7月7日
京都府立洛東高等学校	太田耕司 (京都大学教授)	「天の川と銀河」	7月8日
京都精華大学	小山勝二 (京都大学名誉教授, 京都大学宇宙総合学術研究ユニット前ユニット長)	「世界天文年と京都天文学街道」	7月7日
	竹宮恵子 (京都精華大学教授, マンガ学部長)	「マンガにおける宇宙表現」	
京都大学総合博物館	嶺重 慎 (京都大学教授)	「天の川とブラックホール」	7月7日
京都大学花山天文台	野上大作 (京都大学助教)	「七夕と彦星・織姫そして近くの星々のお話」	7月7日
京都産業大学	米原厚憲 (京都産業大学講師)	「第二の地球探しと神山天文台 (仮称)」	7月7日
京都コンピュータ学院	作花一志 (京都情報大学院大学教授)	「天文フリーソフトの活用法」	7月7日
	深川美里 (大阪大学助教)	「おりひめ星の不思議」	
大阪大学	佐伯和人 (大阪大学准教授)	「石から探る月の起源—月探査衛星「かぐや」で何がわかったか—」	7月7日
大阪産業大学	井上昭雄 (大阪産業大学准教授), OSUプラネタリウムプロジェクト	「おりひめ星(ベガ)とひこ星(アルタイル)」	7月7日
大阪市立科学館	神田展行 (大阪市立大学理学研究科教授)	「宇宙からの音: 重力波を聴く」	7月7日
岸和田市総合福祉センター	北井礼三郎 (京都大学准教授)	「母なる太陽の素顔」	7月7日
大阪市立科学館	石坂千春 (大阪市立科学館)	「大人のための七夕ナイト~宇宙における出逢いの話~」	7月4日
大阪教育大学	定金晃三 (大阪教育大学教授), 福江 純 (大阪教育大学教授), 松本 桂 (大阪教育大学講師)	「ブラックホール活動天体とは!」	7月7日

七夕講演会 講演一覧

会場	講演者	講演タイトル	実施日
枚方市立サンプラザ生涯学習市民センター	柴田一成 (京都大学教授, 宇宙総合学研究会ユニットユニット長, 理学研究科附属天文台台長)	七夕伝説の地・枚方で「宇宙のお話し」	7月4日
枚方市立津田生涯学習市民センター	柴田一成 (京都大学教授, 宇宙総合学研究会ユニットユニット長, 理学研究科附属天文台台長)	七夕伝説の地・枚方で「宇宙のお話し」	7月7日
ひかり保育園	富田晃彦 (和歌山大学准教授)	たなばたまつり	7月7日
兵庫医療大学	加藤精一 (兵庫医療大学講師)	ガリレオが見た宇宙	7月7日
甲南大学	富永 望 (甲南大学講師)	星の一生	7月7日
UCCカフェコンフォート神戸市庁舎	ソフィア・パトリック・リカフィカ (近畿大学助教)	太陽系に未知の「惑星 X」が存在する!	7月7日
兵庫県立西はりま天文台公園	黒田武彦 (兵庫県立西はりま天文台公園園長, 兵庫県立大学教授)	友の会例会講演「七夕の星とその物理」	7月4日
奈良女子大学附属中等教育学校	林 左絵子 (国立天文台ハワイ観測所)	「星に願いを」	7月7日
鳥取市さじアストロパーク	相本 実 (鳥取市さじアストロパーク研究員)	「地上に降りてきた七夕」	7月4,7日
岡山理科大学	田辺健茲 (岡山理科大学教授)	「小望遠鏡による天文学」	7月7日
ライフパーク倉敷	One Time	「プラネタリウムコンサートたなば特集」	7月4日
科学センター	香西洋樹 (鳥取市さじアストロパーク・佐治天文台台長)	「かくされる太陽・日食を楽しもう」	7月12日
美星天文台	綾仁一哉 (美星天文台台長)	「七夕の星のひみつ」	7月7日
岡山大学	前原英夫 (元国立天文台岡山天体物理観測所所長)	もうひとつの地球をさがす	7月7日
岡山天文博物館	柳澤顕史 (国立天文台岡山天体物理観測所助教)	「赤外線って何?岡山観測所の赤外線観測装置で見る新しい宇宙」	7月4日
栄町桃たろうポケット	吉田道利 (国立天文台岡山天体物理観測所准教授所長)	「七夕天文トーク・宇宙の一番星を探せ」	7月7日
広島大学	植村 誠 (広島大学宇宙科学センター助教)	「人間と望遠鏡が見た星の世界」	7月7日
山口市立大蔵中学校	藤沢健太 (山口大学准教授)	「七夕、日食、世界天文年」	7月7日
中市コミュニティホール (Nac)	矢治健太郎 (立教大学理学部特任准教授), 小林正照 (山口県天文協会会長) ほか	日食リレー講演—もうすぐ大きな日食だ!—	7月5日
下関市立大学	佐々木 実 (下関市立大准教授)	「ガリレオから 400 年天体望遠鏡と天体観測の歴史」	7月3日
	中尾泰士 (北九州市立大学教授)	「2009 年 7 月の日食と太陽活動」	
徳島県立あすたむらんど子ども科学館	中橋弥里 (徳島県立あすたむらんど子ども科学館)	特別放映「たなばたのお話し」	7月4日
阿波踊り会館 2階ホール	伏見賢一 (徳島大学ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部准教授)	「七夕伝説と天の川 (市内でどれだけ星が見えるかな?)」	7月7日
香川大学	松村雅文 (香川大学教授), 松本一範 (香川大学准教授), 寺尾 徹 (香川大学准教授), 北林雅洋 (香川大学教授)	「宇宙誌を読む: 天体から生物まで」	7月7日
愛媛大学	粟木久光 (愛媛大学教授)	「宇宙への招待 (仮題)」	7月7日
高知工科大学	山本真行 (高知工科大学システム工学部准教授)	「今宵七夕星三昧~織姫・彦星と和の宇宙観~」	7月7日
九州大学	藤原智子 (九州大学助教)	「夏の星空と七夕伝説」	7月7日
福岡市別府公民館	山岡 均 (九州大学助教)	「日食を見よう!」	7月7日
	長島雅裕 (長崎大学准教授)	「星のひみつ」	
長崎市科学館	勝俣 隆 (長崎大学教授)	「七夕の秘密—なぜ七夕は七月七日なのか。…七夕を天文学 (てんぶんがく) から読み解く—」	7月4日
東海大学熊本キャンパス	藤下光身 (東海大学教授)	「天体までの距離はこうして測る」	7月7日
熊本大学	小出眞路 (熊本大学教授)	「宇宙の花火」	7月7日
熊本市立熊本博物館	松本欣也 (東海大学産業工学部准教授)	「電波で見た惑星や銀河の姿」	7月7日
大分大学	仲野 誠 (大分大学教授)	「世界天文年の七夕と日食」	7月11日
錦江湾公園 6m 電波望遠鏡観測施設前	今井 裕 (鹿児島大学大学院理工学研究科准教授)	「星空の講話」	7月4日
久茂地公民館	伊佐常正・垣花正男 (プラネタリウム解説)	「なほの日に星空を見上げよう」	7月5日

*この表は七夕講演会ホームページ (<http://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp/tanabata/>) にも掲載されています。